

## 平成26年度「第2回山梨県男女共同参画審議会」議事録

1 日 時:平成27年2月12日(木)午前10時30分～

### 2 審議会出席委員

(審議会委員)松葉惇会長・牛奥久代会長代理・赤岡正毅委員・岡村美好委員

小川はるみ委員・小田切陽一委員・川村克美委員・久保寺成典委員

高橋好美委員・新津なを志委員・樋口高子委員・堀内詠子委員

堀内寿人委員・宮崎正成委員・山上真理委員

15名出席

(事務局等)横森企画県民部理事・市川県民生活・男女参画課長

三井県民生活・男女参画課総括課長補佐・古屋男女共同参画担当課長補佐

志村副主幹・木戸主査・山口主任・香西主事

(進 行) 三井県民生活・男女参画課総括課長補佐

### 3 会議次第

(1)開会

(2)企画県民部理事あいさつ

(3)会長あいさつ

(4)議事

報告事項

①平成26年度山梨県男女共同参画年次報告書について

(5)その他

### 4 概 要

◇ 開 会

◇ 理事あいさつ

◇ 会長あいさつ

◇ 事務局から

・本日の会議は、委員数15名中15名が出席しており、委員の2分の1以上の出席となっていることから、山梨県男女共同参画推進条例第22条第10項の規定により、会議を開催する。

◇ 議 事(条例第22条第9項により、会長が議長)

(1)「平成26年度山梨県男女共同参画年次報告書」について

議 長 ●「平成26年度山梨県男女共同参画年次報告書」について事務局から説明願う。

事務局 ●「平成26年度山梨県男女共同参画年次報告書」について説明)

議 長 ●質問等はあるか。

委員 ●「就業体験・医療体験・福祉体験等を実施している高校生の割合」だが、キャリア教育ということで教育委員会全体が力を入れている。そういった中でこのような体験ができる機会を設けているので、これから先も引き続きこのような活動ができるのではないかと考えている。一点心配しているのは43番の「薬物乱用防止教室を実施している学校の割合」が基準値より下回っている状況。高校を考えると、どの高校も実施しているのになぜ下回っているのかと不安を感じている。ただ高等学校では求められているものがいくつかあり、本校でいえば薬物乱用、スマートフォン等との関わり、性感染症と大きく3つ行事を行っている。各年で各学年ごとに、という形を取っているため、在学中に1回はそれぞれにテーマに触れるようにしている。学校によっては、薬物乱用については隔年で実施している学校もあると聞いているので、そのためこのような数値となっているのではないかとは思っている。いずれにしても薬物乱用は大きな問題なので、どの学校も積極的に関わっていったということは把握している。

議長 ●中学校はどうか。

事務局 ●中学校については、薬物乱用防止教室以外のテーマでの教室の実施が増えているため、その結果薬物乱用教室の実施が減ってしまっているが、薬物乱用を減らしていく方向ではないと聞いている。

委員 ●大学では、2年生を中心に最新の知識を学ばせて、自らの行動を戒めるだけでなく社会に発信してくことができる学生を育てることを目標に教育を行っており、学生が学んだ知識を地域に還元できるような場を求めている。たとえばヘルスプロモーションクラブというサークルがあり、これは看護学部の学生が中心となって、DVや薬物乱用や性感染症の話を地域に出て行っていくということを行っている。私たちもそういった活動をしていることを発信していくが、そういったリソースがあることを知っていただき活用していただくと広がり生まれるのではないかと考えている。

委員 ●22番の「子ども防犯教室の開催数」について、予定より遅れて進捗しているとのことだが、昨今子どもが被害に遭う事件が発生しているとニュースでも見聞きする。そこで、この教室はどのような内容で学習を行っているのかということと、このような機会をもう少し多く設けてもらい、子どもが自ら自分の身を守ることができるように進めていただければと思う。

事務局 ●「安全・安心なまちづくり」として当課で所管している。この事業のために警察官が当課で職員として仕事を行っており、幼稚園や小学校低学年に向けて希望があれば県内どこにでも出向いて行って、「知らない人に声をかけられてもついて行かない」「知らない人に声をかけられたらどう対処したらよいのか」といったことを紙芝居などをもちいてわかりやすく説明をしている。今後もこのような教室があることを宣伝、普及啓発をして、より多くの幼稚園、小学校などの児童に利用していただけるようピーアールしていきたい。

委員 ●先程高校生の薬物乱用教室についての話があったが、デートDVについての教育はどのように実施しているのか。

委員 ●高校では、デートDVだけをテーマとするというよりも、いじめや人間関係などを含めた広い部分の中で扱っている。本校でも、いじめやスマートフォンを含めた人間関係の構築といった講座の中に絡めて実施している。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>●お手元のデートDV防止の啓発パンフレット等を作成し、大学や学校に配布し啓発に取り組んでいる。また、高校の先生方を対象にデートDVに関する研修を行った。実態がどうか、どう対処していけばよいか、などの研修を行い、非常に多くの先生にご参加いただいた。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●直接生徒へDV防止に関する働きかけるような学習会は行っていないのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一つ一つの学校に対してという形はなかなか難しい面もあるので、研修を受けてくださった先生方がそれぞれの学校現場で広めていただければと考えている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域推進員として2年間活動してきたが、当初地域の中で男女共同参画という名前は知っているが中身はわからないという話を多く聞いたので、市にどのような活動をしているのか聞いたところ、市は市独自の活動をしているということだった。そのため、市には小地域におろしてもらって活動できるような環境がほしいと伝えた。そういった中で、市としての推進員を2名推薦してほしいということで推薦したが、それが地域の活動に結びついてこないというのが現状。また、防災・減災を絡めた地域の男女共同参画のあり方について回覧などでまわしたが、回覧だけではなかなか理解されていない。区の中での男女共同参画の組織があればいろいろな活動ができるのではないかと考えている。県、各市町村を交えて区単位など小地域でも体制ができて活動できるような環境をぜひ作っていただきたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域にどのように広めていくか、一人一人の意識に働きかけるにはどのようにしたらよいかというのは大変大きな課題。それぞれの生活に直接関係する部分で男女共同参画とはどのようなものかということを理解してもらうことが男女共同参画の普及、推進に繋がっていくものと考えている。そういったことから、地域男女共同参画推進員の方々に、身近で誰もが関係する地域防災を一つのテーマとして男女が共に課題を解決していくという取組を現在も行っていただいている。区ごとなどきめ細かく進めていくためには県だけでできることではなく、市町村等との連携も必要と考えているので、いただいたご意見を参考にさせていただきたい。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>●区の代表者は女性が徐々に多くなってきている。自治会単位などで男女共同参画に関する説明会などができるとよい。そういったことを県や市町村で模索できたらよいのではないのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>●男女共同参画センターで出前講座も行っているのでも、自治会の会合がある際などタイミングをとらえて活用していただけるとよいのではないかと思います。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●行政のほうから各地域におろしていただけると活動がスムーズに進むのではないのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市町村担当者が集まる機会もあるので、参考にさせていただきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●富士吉田市の男女共同参画推進会議は平成26年度、平成27年度の重点目標を掲げて、少子高齢化という背景の中で子育て支援を目標に掲げた。具体的な内容としては、企業の中で男性が育児休暇を取りにくい状況があるので、なにが弊害となっているのか考え、会社の環境も大いに影響しているのではないのかという課題が上がった。そこでイクボスを育てましようということプレゼンテーションしようということで、企業に向けて出前講座を行う取組を行おうとしているところ。手始めにぴゅあ富士のフォーラムや法人会の朝活で実施した。今後は企業、サークル、民間団体をターゲットに、会社の意識を変えて男性も育児休暇をとりやすい、また女性も育児休暇をとっても正職員でいられるように出前講座を行う取組を始め</li> </ul>

	たところ。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>非常に参考になる事例をありがとうございます。少子化問題について、企業が担う役割は非常に大きいと考えている。県でも企業子宝率調査という従業員が子どもを何人持っているのかという調査を行い、その中でまさにイクボスという、子育てに関心をもっている方がいることを把握することができた。そういった取組を広く情報発信していき、企業の取組に繋げていきたいと考えている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>進捗率が100%となっている4番の「さまざまな知識や技能を持つ地域住民が学校や家庭、地域に貢献できるための仕組みづくりに取り組んだ市町村の割合」について、一地域住民としてどのような仕組みづくりがされているのかがわからない。また、仕組みづくりに取り組んだということだが、これが今後どのように活用されていくのかが見えないと、100%達成になったと喜ぶわけにはいかないと思う。今後たとえば地域住民が学校に行っている学校の割合がどの程度なのかなど、内容が見えてくるようになるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>やまなし学校応援団という事業があり、全市町村が取り組んだということでこのような数値になっている。ご意見の趣旨は個々の学校がどのようなことを行っているのかということか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕組みづくりに取り組んだと書いてあるので、仕組みづくりで終わってしまう可能性はないかということ。この先の成果についても見えるようにしなければこれで終わってしまう恐れはないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>やまなし学校応援団はサッカーが得意な住民が学校に出向いてサッカー教室を行っているなど、地域ごとに行っていることは違うが、全市町村がこの事業を行っている。ご質問の内容はそこから先の成果はどうかということか。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>今現在は実施しているが、この先も確実に続けられるのかという趣旨かと思う。具体的には実施している市町村に聞いてみないとわからないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>そこまでは細かくは聞き取りをしていない。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後把握に努めてほしい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>承知した。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕組みを作る、周知度を指標としてチェックすることは行っているが、結果として男女共同参画が進んでいるのかがわからない。たとえば周知度は上がったが、本当に意識が変わったのかというのがわからない。イベントや仕組みはやっても、実際に意識が変わっているのかが読み取れない。イベントのやり方や仕組みは正しかったのかということを検証して、仕組みを見直すということまで行わないと、やって自己満足して終わってしまうのではないかと。男女共同参画を実質的なものにするためには見直すということまでやらないと、かけ声だけで終わってしまうのではないかと。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員の皆さまにご参加いただき、実施状況の報告を聞き、その上でこういうふうによったら実行できるだろうということを考え、意見を県にあげていくということがこの審議会の役割。そのことを念頭に置いて県も委員の皆さまも共に案を出し合っよりよい計画にしていければと思う。</li> </ul>

#### (4) その他について

議 長 ●その他にはあるか。

議 長 ●以上をもって、本日の議事をすべて終了する。議事進行への協力いただいたことに謝礼。

事務局 ●以上をもって、平成26年度第2回男女共同参画審議会を閉会する。謝礼。